

海外のニュース

アメリカにおけるポインセチアコナジラミの発生状況

アメリカ合衆国のカリフォルニア州南部サンディエゴ近くのインペリアルバレーで発生しているポインセチアコナジラミの被害状況などについて紹介する。

カリフォルニア州南部は、アメリカ合衆国の冬野菜の主要産地で、多くの野菜が大規模に栽培されている。この野菜栽培地帯の一角にあるインペリアルバレーでは、1991年夏にポインセチアコナジラミが侵入して以来、野菜生産者は本虫による被害に悩まされている。

本虫の発生量は非常に多く、この成虫が飛翔する様子は、まるで雲が吹雪のようである。ほ場で作業する人は、このコナジラミを吸い込まないように、マスクを着用しなければならない有様であった。

これまで本虫による被害が報告されている作物はメロン、



カボチャ、キュウリ、アルファルファ、ニンジン、レタス、カリフラワー、ブロッコリー、ワタ、ブドウ、カンキツ類など多種類にわたっている。本虫は、これら作物の葉裏面に付着し、口針で汁液を吸収する一方、糖液を分泌し果実を汚したり、ウイルスを媒介することが知られている。また、本虫の繁殖力は非常に旺盛であることに加え、農薬に対する薬剤抵抗性が発達しており、防除が困難なことから、現在では「スーパーバグ」と呼ばれている。

このような「招かざる病害虫」のカリフォルニア州への侵入は本虫が初めてではないが、生産者にとってポインセチアコナジラミは農作物を最も荒廃させる大害虫と考えられている。

例えば、インペリアル郡のメロン栽培面積は17,000エーカーから1,000エーカーに減少した。専門家の試算によると、もし本虫の繁殖を抑制できなければ、その損害は春までに全米で2億ドルに達すると予想されている。

また、本虫は、主に風によって移動し、一晩で6マイルを飛翔することが可能であることから、発生地域は拡大している。このため、同郡に隣接したリバーサイド郡でもカンキツとブドウに500万ドルの被害を与えており、西アリゾナでは、メロン栽培に大きな被害がでている。

研究者によると、本種の正確な分類はなされていないが、1986年にフロリダ州のポインセチア栽培温室で初めて確認されたタバココナジラミの一つの系統ではないかと考えられている。

現在、本虫を防除する適切な手段がないため、農家は被害作物をすべて除去して本虫を防除しようとしている。一方、研究者は本虫に有効な天敵の探索を行っており、すでにハウス室内実験で、テントウムシの一種が有効であることが判明している。また、米国農務省では、ポインセチアコナジラミの寄生蜂を見つけており、1991年暮れから野外での試験が行われることになっている。

(NEWSWEEK / NOVEMBER 25, 1991)

発行所	横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通6-64	☎(045)211-2299
発行人	上垣隆夫
編集責任者	鈺持秀禔
印刷所	内村印刷株式会社